

<ウェブサイト公開用>

平成27年度第5回社会福祉審議会児童福祉専門分科会及び

第4回東大阪市ひとり親家庭自立促進計画懇話会合同会議 議事要旨

日 時	平成28年2月16日（火） 午前10時00分～正午
場 所	総合庁舎7階研修室
出席者	<p>（社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員）</p> <p>中川千恵美（会長）、井上寿美、勝山真介、吉田聖子、藤並マサ子、森田信司</p> <p>（ひとり親家庭自立促進計画懇話会委員）</p> <p>日比野次子、平宇睦美、奥田恵美香</p> <p>（事務局）</p> <p>子どもすこやか部 田村、川西 子ども家庭課 菊地、浅尾 子ども見守り課 西島 子ども子育て室 奥田 施設指導課 三崎 子ども応援課 関谷 子育て支援課 栗橋 保育室 寺岡</p>
議 題	<p>1. 東大阪ひとり親家庭自立促進計画（案）について</p> <p>2. 母子生活支援施設のあり方の検討について</p>
議事内容	<p>（開会）</p> <p>【東大阪ひとり親家庭自立促進計画（案）について】</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大阪ひとり親家庭自立促進計画（案）について説明。 <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度・サービスの一覧に、東大阪市社会福祉協議会の福祉資金の貸付けやオール大阪の社会福祉法人の社会貢献事業も掲載していただきたい。 <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学び直しの支援には、具体的に何があるのか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度から予算化している事業になるので整理していきたい。 <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度から保育士の奨学金についても予算化されるのでお願いします。 <p>○事務局</p>

・予算が確定していない段階では記載できないが、できるだけ実用的なものにしたい。

○会長

・概要版には各制度の具体的な窓口の記載をお願いします。

○委員

・女性相談センターに相談に行かれた市民の方の話を聞いたところ、対応が良くなかったとの話があった。

○委員

・東大阪市にはこれまで女性相談の窓口や専門の相談員がいなかったが、28年度の予算で要求されている。

○事務局

・制度が大きく変わる時期に来ている。DV相談員や、学び直し、貧困対策、学習支援等の開始についてわかりやすく記載したい。

○会長

・計画の内容を更新された際には、委員の皆様への案内をお願いします。

○委員

・ハローワークと母子家庭等就業・自立センターが載っていない。

○事務局

・追記する。

○委員

・完成した計画書は配布されるのか。

○事務局

・市政日より、WEBサイトで周知するだけでなく、母子福祉推進委員の方とも協力して周知していきたい。地域のひとり親家庭の方を行政サービスにどのようにつなげていくのか、母子福祉推進委員の方や母子寡婦福祉会の方々と一緒に考えていきたい。

○委員

・概要版はQ&Aがすごくわかり易い。イラストがあると読みやすいし、利用しやすい。

○委員

・概要版の問い合わせのところにQRコードを入れると見やすい。

○委員

・ひとり親家庭の方で保育園や認定子ども園などに子どもを預けている方もいらっしゃるので、28年度予算のICTシステムの活用も可能ではないか。

○事務局

・保育園や認定こども園などでも情報提供ができれば良い。

○委員

・障害者の雇用に助成金が出るように、ひとり親家庭の方の雇用についても同様の制度を設けるなどして、正社員の雇用を増やしてほしい。非正規雇用では、生活が不安定なので、安定した収入が得られるよう、社会全体で就労支援をどう行うか考える必要がある。

中川会長－社会への啓発とひとり親家庭の自立にはいくつかのステージがある。問題意識を持ち、改めて考えていきたい。

【母子生活支援施設のあり方の検討について】

○事務局

・母子生活支援施設のあり方の検討について説明。

○委員

・高齢者施設のケアマネージャーのような人が必要ではないか。

○会長

・施設の規模は3世帯しかできないのか。

○事務局

・財政的な問題があり、財政担当者からすれば、市が直営である必要がないのではないかということ。子どもすこやか部としては一旦身を寄せる所が必要と考えており、3世帯の規模が妥当。できれば24時間体制で対応が可能な福祉施設があればいい。

○委員

・高齢者施設などとの複合型がよいのではないか。

○委員

・深夜や休日の対応が課題。

○会長

・西宮市では社会福祉法人が母子生活支援施設を運営しており、駅に近い所で都市型のサテライトのようなもの。

○委員

・新しい施設では、複合的に支援が必要な方や子ども達の居場所を提供してほしい。

○会長

・入所している人の状況や子どもの居場所、休日、祝日などの対応の問題もある。

○委員

・障害福祉関係の法人がよいのではないか。

○委員

・24時間体制の支援というのは、巡回したり駆けつけてもらえたりするものか。

○事務局

・夜中に相談の連絡があった場合に、どこまで対応できるものなのか考える必要がある。

○委員

・母子家庭の母親の支援だけでなく、子どもの支援という観点からも条件を設定できないか。

○会長

・児童養護的な経験が必要。

○事務局

・実績や経験についてのプレゼンテーションや、児童支援についての提案をさせることも検討する。

(閉会)